



FC TOREROS NEWSLETTER

NO.8
2011年5月号

発行時期
毎月1回(最終土曜日)

エフシートレーロス
ニュースレター



(撮影) 2011年4月23日、杉並第十小学校にて全日本少年サッカー大会第4ブロック予選

Report

●横浜F・マリノスプライマリーとの練習試合 in マリノスタウン

4月24日(日)に名門、横浜F・マリノスプライマリーとの練習試合を行いました。日本を代表する強豪チームとの試合。胸を借りるのではなく、自分達のスタイルを貫き、正々堂々と立ち向かうという気持ちで試合に臨みました。しかし、立ち上がりからマリノスのパススピード、判断スピードの速さに圧倒され気味…。結果的には大敗を期してしまいました。しかし、試合に負けてしまったものの、トップレベルのチームに対し、自分達の何が足りなく、何が通用するか。子ども達自身が肌で感じられたのは大きな収穫でした。この経験を次に生かしましょう!



●新U15チームのスタート!

2年目を迎えるU15。今年は佐々木監督を迎え、4月よりスタート。3月11日以降、節電の影響で大きなグラウンドで活動することができず、フットサルコートでの活動となっています。しかし、被災地の方々、他クラブの状況などを考えると、サッカーができるだけでも恵まれた環境です。そのような中、佐々木監督率いるU15チームが5月1日より初の公式戦(全日本クラブユース選手権予選)が行われます。今年は震災の影響でリーグ戦形式ではなく、ノックアウト方式にルールを変更。過酷な闘いになりますが、選手達の持っている全ての力を出して頑張ってください!!



Best Supporter

サッカーの試合に行くと、よく見かける光景。試合会場でのチームの場所取り、飲み物も着替えも、何から何まで親が準備。子どもはただ単に用意されたものを飲み、言われるままに着替えるだけ…。多くは自分達で出来ること。必要なことは自分で必要だと感じ、自分でやろうと思うことこそ大切です。足りなかったり、不便だったら、自分で考え、工夫し、相談したりして何とかしようとする。そして、次にはそうならないようにすることが大切なのです。サッカーは自立のスポーツ。自立というのは、「自分自身で判断し、責任をもって行動する」ということです。誰かにやれと言われたからではなく、自分自身がやりたい、やった方が良くと思うからやる。失敗も自分の判断によるもの。誰かのせいにはできないのです。何から何まで大人がそろえてくれる環境に子どもたちが「あって当然」と思うことは大間違いです。用意してもらえない環境では何もできない、適応できない人間に育ってしまうでしょう。何から何まで常に用意されている環境を与えることがマイナスとなることもあるのです。

(引用文献) 日本サッカー協会「目指せ、ベストサポーター」より

Toreros Voice

Der Sieg über uns selbst ist der höchste Sieg

～自分自身との闘いに勝つこと、それが最も偉大な勝利である～

日本サッカーの育ての親と言われるデットマーレ・クラマー氏の言葉です。私は、育成年代における勝利を考える時、いつも最後にはここに行きつきます。子ども、大人に関係なく、試合に勝ちたいとは誰もが思うでしょう。また、親なら「子どもに勝たせたい!」と願うのも当然です。しかし、試合の結果よりも大切なこともあるのです。それは、「負けず嫌いを育てる」こと。つまり、子ども達の内発的動機をいかに高め、育てていくということです。はじめは勝敗に拘りのない子どもでも、年齢が上がってくると自然と競争意識が生まれてきます。そのような時期が負けず嫌いな子どもを育てるタイミングなのです。そうなれば、自然と自分の心の中に燃えるものを持ち、内発的動機づけが高まります。ちょっとした大人のアドバイスで成長していき、自分自身に厳しさをもち、自立心も芽生えてくるものです。私達が見てきた夢を実現した選手の多くは、このような性格なのです。そのためにも、目先の勝敗だけに目を向けるのではなく、長いスパンで子ども達を見守る、大人の理解が最も必要でしょう。